

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

| | |
|---|---|
| 今年度より“環境整備”に取り組む | ✓ |
| 昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む | |
| 昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む | |
| 昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む | |

活動団体名：株式会社 萩・森倫館

活動地域：萩市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

『 森と、まちと、人をつなげる 』

活動団体紹介

■山口県萩市とは

萩市は山口県北部に位置し、北は日本海に面し、市の南部・東部は中国山地の山々や丘陵地が大半を占め、平野は河口部など一部で、豊かな地形と自然環境に恵まれた地域である。

また、中心市街地は阿武川河口部の三角州に建設された萩藩の城下町であり、松下村塾や藩校明倫館などの全国に誇る学び舎があり、歴史・文化のまちとして年間約240万人の観光客が訪れている観光都市である。

市域の約8割を森林が占めており、地域林業の担い手たる林業事業体は阿武萩森林組合1者である。素材生産量の減少や木材・木製品の事業所の減少など衰退傾向にあり、既存の市内林業事業体では木材の生産量の増加及び担い手の確保・育成が困難であることから、持続的な森林資源の利活用ができていない状況にある。

また、40~50年前に発生した松枯れ後の林地に植林されたヒノキが今後伐期を迎え、枝打ちなど丁寧な管理がされてきた資源の利活用方法も課題となっている。

■活動団体 株式会社 萩・森倫館とは

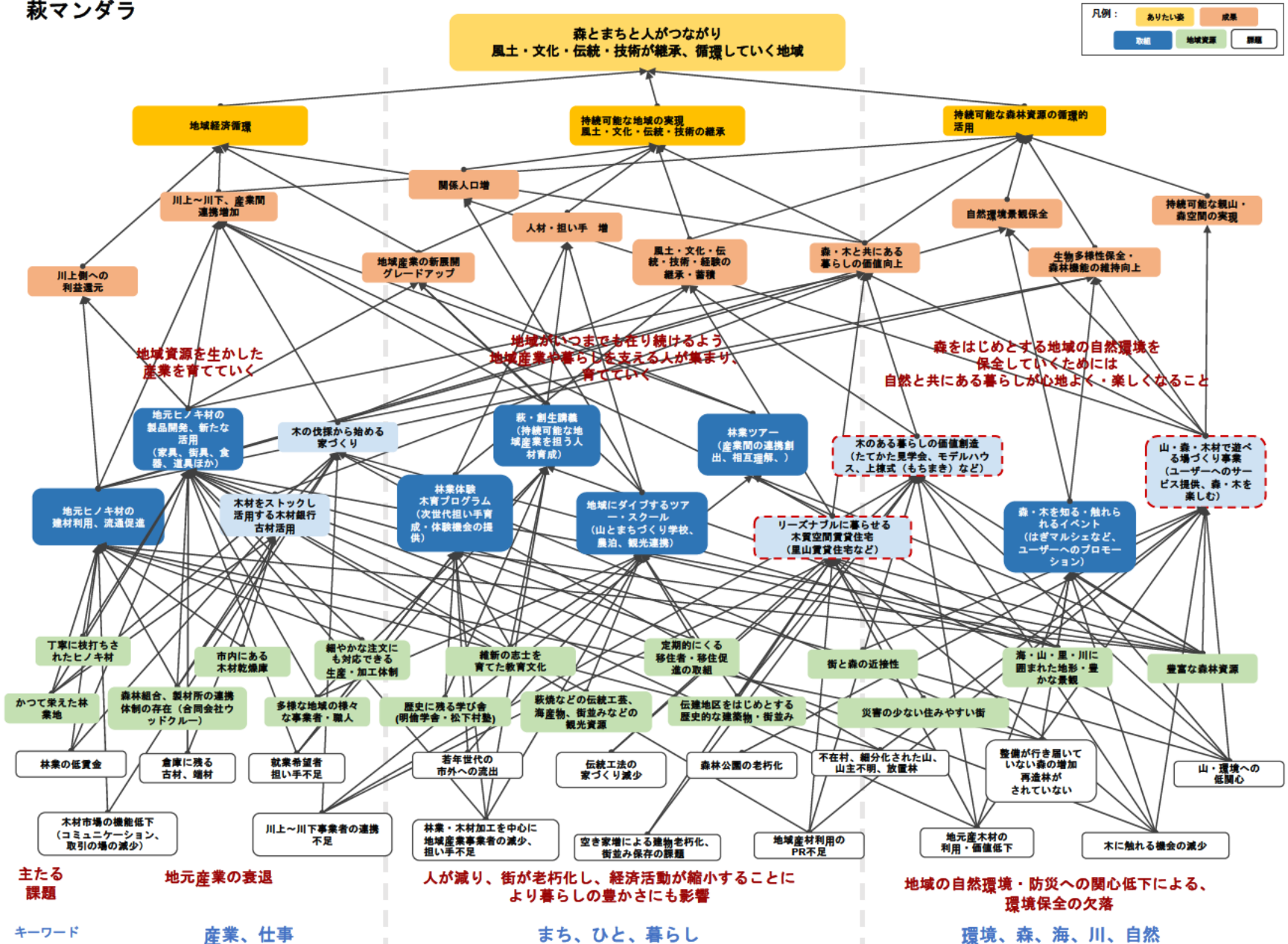
かつて木材とともに森林から得られる竹や薪、炭などを利用した地場産業や生活に根ざした森林資源利用がなされていた集積地の再生を発端に設立された会社である。市と連携し、萩・森倫館が中心となって、市内に大きく広がる森林資源の循環利用を中心に、林業の再生と雇用創出の「もりづくり事業」、教育機関とも連携し地域資源を活用する人材を生み出す「ひとづくり事業」、森林資源を中心とした地域資源の利活用の継承と普及促進をおこなう「まちづくり事業」を行う。それらの事業を有機的につなげることによって、地域に根づく歴史・文化との関連付けや藩政時代から続く人材育成の地としての特色を生かした地域を目指す。

(参考：株式会社 萩・森倫館WEBサイト | <https://hagi-shinrinkan.jp/>)



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

萩マンドラ



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

1. 地域産材利用推進事業

地域の森林組合、製材所と連携し、一定量萩産ヒノキ材の利用ができた。また、商品の試作もでき、商品開発に向け進行中である。

・内装材利用空間件数 4件 ・商品開発 3件 ・連携事業者 2事業者

内装材利用



商品開発の施行



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

2. 人材育成事業

地域の中学校への職業講話、県内の工務店を対象とした木とまちの循環ツアーなどを実施。ツアーに参加いただいた事業者と意見交換会も実施、今後の事業連携可能性が広がった。

- ・木とまちの循環ツアー参加者数 3事業者
- ・中学校向け講義開催数 計9回

職業講話



木とまちの循環ツアー・意見交換会



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

3. 森林資源利活用普及啓発事業

市民を中心に、萩の森・林業・木について知ってもらう機会として、イベントにて展示・ワークショップの開催・端材の販売などを行った。

・イベントへの出店回数 1回（新型コロナウイルス蔓延に伴う、イベント中止により予定より実施回数減）

はぎマルシェ出展様子

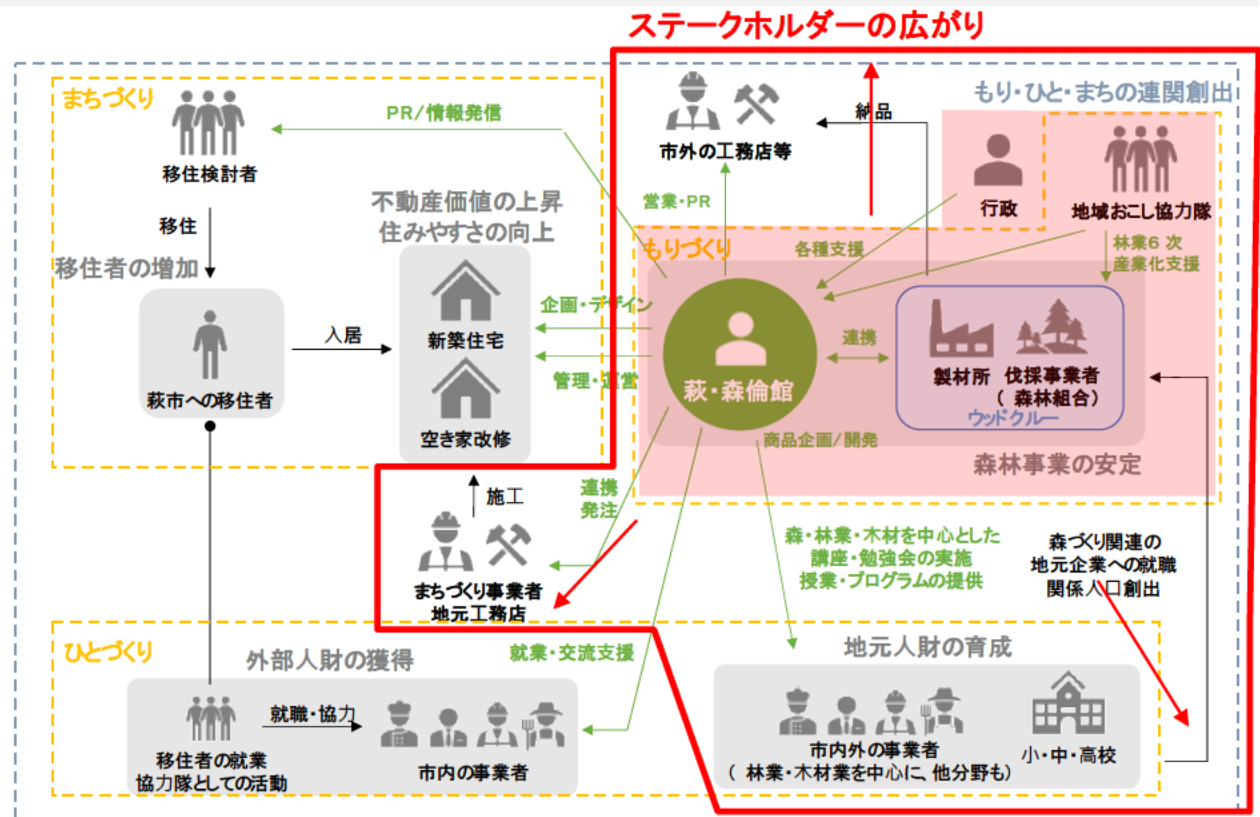


ワークショップ様子



取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

- ①ステークホルダーやコアメンバーの広がり（工務店グループへの広がり）【下図】
- ②関係者の意識の変化（コアメンバーの主体性の向上）
- ③取組の環の広がりなど（ウッドクルー、工務店グループが抱くユーザーへのプロモーション機会の必要性）



取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

【新たに見えてきた課題】

● 地域材活用を促していくためには、まずユーザーへの普及啓発が優先

木のある暮らしの価値が醸成し、主体的行動が進んで初めて、地域の森林、産業、歴史的街並みへ意識が向いてくると考える。

まずは、地域の中の、建物の中の、我々の暮らしを考えていくこと。その上で森・木材との関係性を取り戻していく。

● 森・木材に関わる場所・機会

森・木材に関わる場所・機会が少ない、興味があっても関わり方がわからない。森・木材に関わるコンテンツや窓口、居場所を通して、関わりしろを作っていくことが重要。

今後の展望

1. 事業化に向けた取組

- ・事業のタネとしてあげている「里山賃貸住宅事業」「木のある暮らし価値創造事業」「山・森・木材で遊べる場づくり事業」のブラッシュアップ
- ・事業者の誘い込み
- ・事業のタネの小規模稼働とフィードバック、検証分析

2. 地域プラットフォームの構築に向けた取組

- ・更なるステークホルダーの誘い込み（木材関係以外の業界へ徐々に）
- ・ビジョンの具体化、マンダラのブラッシュアップ・拡張化
- ・具体的な目標のブラッシュアップ